

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070500667
法人名	医療法人 小倉蒲生病院
事業所名	グループホーム しあわせ
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市小倉南区徳力6丁目1-25 (電話) 093-965-6170

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年11月11日	評価確定日	平成20年12月24日

【情報提供票より】(平成20年10月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年1月31日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	15 人	常勤	5人, 非常勤 10人, 常勤換算 6.28人

(2) 建物概要

建物構造	木造スレート葺2階建て造り 2階建ての1~2階部分
------	------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	(水光熱費) 15,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,500円			

(4) 利用者の概要(10月20日現在)

利用者人数	8名	男性	0名	女性	8名
要介護1	4名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	78歳	最高	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小倉蒲生病院 / 北九州総合病院 / あおきクリニック / かんざき歯科
---------	--------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームしあわせは、北九州市モノレール小倉線徳力嵐山口駅から徒歩約5分ほどの利便性が高い閑静な住宅地に位置している。母体法人は医療法人であり、認知症分野でもエキスパートの人材が揃う医療機関である。管理者は看護師であり、母体病院との連携を図り、健康管理に努めており、栄養管理士のチェックも受け、緊急時の支援体制も整っている。家族にとっては大きな安心感がある。近郊には、公園や保育所・地域交流センター・徳力市民センターがあり、地域との交流を高めることができる環境を有している。特に徳力市民センターは、平成20年11月30日に開館し、今後の地域との交流の要として連携を高めていきたいと考えている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では、地域との連携や市町村との連携・記録の簡素化などが挙がっていた。地域との連携に関しては、徐々に取り組んでいるが、今後は、徳力市民センターとの連携を高め、地域交流に力を注いでいきたいと考えている。その他の改善課題もミーティングなどで管理者・職員で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価にあたっては、前回の評価を振り返り、ミーティングを行い、自己評価に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、定期的に2ヶ月毎に開催し、地域の行事の情報を得たり、地域との交流を高める機会として活かしている。ケアやサービス提供における現状報告を行うと共にアドバイスをいただき、運営面に反映していくように取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	運営推進会議は家族の参加があり、意見などを言ってもらえるように取り組んでいる。また、面会時には、家族の意向や意見を言ってもらえるように家族との関係づくりに努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	これまでは、地域交流センターを拠点に地域との関係づくりを高めてきたが、徳力市民センターの開設により、更に地域との交流を図り、入居者の日々の暮らしを豊かなものにしていきたいと考えている。また、幼稚園との交流も中断していたが、今後は交流を再開し、子ども達とのふれあい・交流などにより、入居者の楽しみごとを増やし、生きがいのある毎日を送っていただけるように支援していきたいと考えている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	理念は、地域密着型サービスの主旨をふまえ、入居者の個性を尊重し、地域の中で暮らし続けることを支援し、入居者が安心と信頼・満足を得られるように支援していくことを掲げ、独自の理念をつくりあげている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	理念に基づいたケアやサービスの提供ができるように、職員の名札の裏にも理念を書き、理念を意識した取り組みができるように取り組んでいる。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	これまでは地域交流センターを拠点に地域との関係づくりを高めてきたが、徳力市民センターの開設により、更に地域との交流を図り、入居者の日々の暮らしを豊かなものにしていきたいと考えている。今後は、幼稚園との交流なども積極的に行い、入居者の楽しみごとを増やし、生きがいのある毎日を送っていただけるように支援していきたいと考えている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	前回評価における改善課題に関しては、ミーティングで職員と話し合い、改善に向けて取り組んでいる。自己評価にあたっては、前回の評価を振り返り取り組んでいる。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議は、家族の参加があり、意見などを言ってもらえるように取り組んでいる。また、面会時には、家族の意向や意見を言ってもらえるように家族とのコミュニケーションを図り関係づくりに努めている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	北九州市が派遣する介護相談員を毎月1回受け入れている。また、北九州市が後援する「もりフォーラム」にも入居者と共に参加し協力している。日常的には、地域包括支援センターに相談したり、情報交換などを行っている。近隣の地域交流センターには、ホームの案内パンフレットを置かせていただき、地域の方への見学などを受けるようにしている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	母体である医療法人での研修会やホーム内での勉強会で、認知症高齢者の権利に関して、その重要性を理解するために参加している。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	定期的にホームでの暮らしの状況や金銭管理に関しては、毎月の請求と一緒に送り報告している。また、入居者の状態変化に応じて電話で随時報告するようにしている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	運営推進会議に家族の出席をお願いし、意見や意向を言っていただけるように取り組んでいる。また、面会時には、職員が家族とのコミュニケーションを図り、日頃の気づいた点など気軽に言っていただけるように努めている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	職員と入居者のなじみの関係に配慮しており、離職に関しては、相談により継続して勤められるように支援している。職員のストレス軽減についても母体病院の看護部長のサポートがあり、勤務の環境づくりに配慮している。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	採用に関しては、性別や年齢などに関係なく、ヘルパー2級以上の有資格者を基本に高齢者の思いや意向に寄りそうことができる人を採用している。職員のスキルアップを図るために母体病院の研修や外部研修に参加できるように取り組んでいる。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	人権研修に参加し、ミーティングで報告を行い、管理者・職員共に人権に関する意識を高めている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	母体の医療法人の研修や外部研修に積極的に参加し、伝達研修を行い、全職員に研修内容の周知を図り、働きながら、更にスキルアップを図ることができるように取り組んでいる。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	福岡県グループホーム協議会に加入し、定期的な研修会に参加し同業者との交流を高めている。グループホーム協議会の活動をサポートし、北九州市における研修会への参加など運営面の支援を行っている。また、グループホーム協議会の組織の一員として行政との連携も高めている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居前に入居者・家族と面談を行い、不安なことや困っていることなどを把握し、安心して入居できるように支援している。入居後に帰宅願望がある入居者には、家族と相談し、外泊のスケジュールを入れながら、本人が納得して入居できるように取り組んでいる。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	昔から得意なことは日々の暮らしに取り入れ、調理や食器洗いや料理のアドバイスなど、できることへの参加を促している。職員は、人生の先輩として入居者から教わったり、入居者の能力が発揮できるように支援している。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時に家族またはケアマネージャから生活歴・生活環境などを把握し、入居者の意向にそったケアやサービス提供ができるように支援している。今後は、センター方式などの検討により、日々の暮らしの中で入居者の思いや意向を更に掘り下げていくことが求められる。</p>		<p>今後は、センター方式の採用などにより、入居者の思いや意向を更に深く掘り下げ、日々の職員の気づきなども含め、入居者の全体像をとらえ、日々の暮らしの中で活かしていくことが求められる。</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居初日から、1週間の24時間チェックにより状態把握を行い、介護計画を作成している。入居者のこれまでの暮らしや生活歴を再度振り返り、入居者の暮らしの喜びや楽しみを含めて介護計画に反映していくことが求められる。</p>		<p>入居者のこれまでの生活歴などを再度検討し、入居者の暮らしの喜びや楽しみが入居者の生きがいにつながるように介護計画に反映していくことが必要である。</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月1回、モニタリングや日々の申し送りでの変化を把握し、入居者の状態に合った介護計画になっているかを検証している。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>母体が医療法人であるため、認知症に関するサポート体制があり、健康管理や栄養摂取の面でも法人の専門職のマンパワーが大きな力となっている。また、母体病院を通じてボランティアに来ていただくなど、法人のスケールメリットを活かした取り組みを行っている。</p>		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>母体病院の認知症専門医がかかりつけ医であり、4週間に1回、受診支援を行っている。また、内科に2週間に1回、整形外科に4週間に1回受診支援を行っており、適切な医療を受けられるように支援している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	ホームとしては建物の構造上、ターミナルケアは取り組むことが難しい状況にあり、希望があった場合は、本人・家族と話し合い、早めに対応できるように努めている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	職員の入居者への声かけは、穏やかなもので、入居者を尊重した対応を行っている。介護日誌や個別のファイルは、一定の場所に保管・管理している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	基本的な1日の流れはあるが、散歩・買い物・カラオケ・洗濯物の片づけなど、入居者の希望とペースに合わせ、過ごし方を調整している。その際、本人の自己決定を尊重している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	入居者は、食事の準備・配膳・片づけなどを行っている。職員と入居者は同じテーブルにつき、会話をしながら食事を楽しんでおられた。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	毎日の検温・血圧チェックにより、その日の体調や様子に合わせて入浴している。季節に応じて菖蒲湯など入浴を楽しんでいただけるように取り組んでいる。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	入居者が好む園芸・料理・裁縫など希望に応じて支援している。今後は、徳力市民センターの開設により、入居者の得意や趣味などを活かせる講座やサークルへの参加など、入居者の暮らしの楽しみごとが多彩に広がることを期待したい。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	日課として天気の良い日は、散歩に出かけ、公園や地域交流センターに立ち寄るなど気晴らしを支援している。また、入居者の外出の機会として往診ではなく受診を支援しており、買い物なども希望によって楽しんでいただけるように取り組んでいる。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	日中は、常に職員が入居者の所在を把握し見守っているが、玄関のドアは、チャイムが鳴るように設備があり、鍵をかけないケアを実践している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	避難訓練は定期的に行い、地域には運営推進会議を通して協力を得られるように取り組んでいる。また、災害に関するマニュアルも作成し全職員で周知している。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	1日の栄養摂取量は捕食を含め1500calとし、水分摂取量は1500mlを目安に摂取できるように取り組んでいる。献立内容は、定期的に母体法人である管理栄養士がチェックし、栄養バランスが取れた食事を提供できるように努めている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共用空間は、ダイニングとリビングで構成され、その横の部屋は状態に応じて入居者が休めるようになっている。共用空間は絵画などもあり落ち着いたシックな雰囲気、季節感を感じる花が飾られ、家庭的な環境となっている。ソファも置かれ、入居者同士でゆっくりとくつろぐことができる空間となっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室は、使い慣れた家具や寝具・仏壇などが持ち込まれ、自分の住まいとして個性的な空間となっており、洗濯物などもそれぞれが干せるようになっており、プライバシーに配慮した暮らしを実現している。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			